



旧金田町内での職場体験

夏の風物詩・水泳の授業風景

小学校創立120周年記念式典

金田小学校の象徴だった運動場の大楠

金田小学校の伝統競技「大玉転がし」

県健康優良学校県1位表彰の祝賀会

昭和12年の授業中の様子

昭和10年に撮影された金田小学校の校舎

「仰げば尊し、我が母校」  
— ありがとう、そしてさようなら、金田小・中学校 —

# 卒業生が振り返る 母校

金田小学校・中学校を卒業した90歳代～10歳代までの各世代10人に、  
在学中の様子や思い出、母校や後輩へのメッセージをお伺いしました。

## 今はなき懐かしの「神崎分校」 S35 卒業

私が小学校1・2年生まで通った神崎分校は児童が少なかったため全員と仲が良く、担任の先生と母との歳が近かったため、学校は家族のような存在でした。



あおの よしのぶ  
青野 義信 さん

分校は昭和44年に廃校になり校舎は残っていませんが、近くを通るたび分校で過ごした日々が鮮明に思い出されます。

## 物資不足に苦しんだ学生時代 S18・16 卒業

私たちの学生時代は、戦争末期で色々な物資が不足していました。特に困ったのは食料。運動場では大豆や野菜を育て、上級生は平原



たぢま しずこ  
辰島 トシ子 さん

地区の森を開墾に行っていました。日本にとって本当につらい時期を乗り越えてきたので、今の平和な世の中があるんだなと痛感しています。

## かつて母校で受けた軍国教育 S16 卒業

私が小学校の頃に日中戦争が始まり、体育とは別に「教練」という軍事訓練を受けていました。次第に日本は戦争一色に染まり、普通



ふくだ まさる  
福田 昌 さん

教科の学習は削減され、耕作や教練などの時間に充てられました。戦争の記憶が薄れていく今、戦争の悲惨さを改めて知って欲しいと思います。

## 人生に密着する金田小・中学校 S62 卒業

金田小・中学校を卒業し、教員免許を取得するための教育実習も金田中で行いました。私の3人の子も金田小・中学校出身で、



おのおつほ じゅんこ  
大坪 純子 さん

PTA 会長も通算で3期努めました。人生に密着し、思い入れのある両校が新たに生まれ変わることを家族全員で楽しみにしています。

## 憧れた「大玉転がし」の花形 S53 卒業

紅白の大玉を運ぶ速さを競う金田小運動会の伝統競技「大玉転がし」が記憶に残っています。背の高い6年生が大玉をゴールへ運ぶ役割が



ながとみ ひさまさ  
永富 久三 さん

花形で「いつかは自分も」と思っていました。身長が伸びず夢はかないませんでしたが、友達と一緒に競技で盛り上がったことを覚えています。

## 金田小学校のリトル・巨人軍 S48 卒業

同級生と遊びで軟式野球チームを結成し、小学校の運動場で上級生や市場小のチームと試合していました。ユニホームは全員で巨



つるもと りゅういち  
鶴元 龍一 さん

人軍の物をそろえていましたが、番番号は当時絶大な人気を誇った王貞治の1番、長嶋茂雄の3番を背負ったユニホームだらけでしたね。

## 6年間汗流した小学校の運動場 H29 卒業

小1の頃から「金田少年サッカークラブ」に所属し小学校のグラウンドで汗を流しました。練習日の月・火曜日は学校で仲間たちと宿題



たがき ひかる  
田吹 光翼 さん

したことを思い出します。思い出のある校舎がなくなることはさみしいですが、後輩たちには新しい校舎をたくさん走り回ってほしいと思います。

## 甲子園優勝支えた地元の応援 H24 卒業

小学校時代は「金田ジュニアクラブ」に所属し、金田中を卒業した後、大阪桐蔭高校へ進学しました。高3のとき勝ち取った甲子園の舞台に、



こくしま こうご  
福島 孝輔 さん

金田の友達や恩師が試合の応援に駆けつけ、エールを送ってくれたことが優勝の後押しになりました。今でも心から感謝しています。

## 海外への視野広がった小学校時代 H11 卒業

各学級と中継で行われた「児童会長選挙演説」が印象深いです。緊張しつつもカメラに向かい一生懸命に話し、無事当選。その後、



いけだ たかひろ  
池田 稔康 さん

児童会長として「車いすテニス大会」の交歓会に携わった経験から海外への視野が広がり、現在ではオーストラリアで生活を送っています。

**学** 校を象徴するといわれる校歌。金田小で歌い継がれる校歌の中に「雄々しき自然の懐に、生い立つ健児千二百」という歌詞があります。明治6年の金田小学校創設時にたった50人程度しかいなかった児童は、昭和22年には歌詞どおり、1千2百人が在籍。同年には、学校教育法で義務教育が「6・3制（小学校6年、中学校3年）」と定められたことから「金田中学校」がこのとき設立されました。その後、日本は戦後のベビーブーム期を迎え、昭和32年

には、金田小史上最高となる1千8百人ほどの児童が通学し、「1学年にだいたい6組ほどあった」と言われています。「明治大正昭和平成令和」という5つの時代を金田・神崎地区の子どもたちとともに過ごした金田小学校からは、総勢1万6千368人の子どもたちが「伝統築く学び舎」を巣立っています。そして、令和2年3月31日「金田義務教育学校」の開校に伴い、金田小は147年、金田中は72年に及ぶ長い歴史の幕を閉じたのです。

黒田天麟の尽力で明治6年に開校した金田小学校と激動の戦後、「6・3制」の施行で産声を上げた金田中学校。両校が「金田義務教育学校」の誕生によって閉校を迎えた今、子どもたちと金田小・中学校とが歩んできた足跡を振り返ります。

# 「学校」と共に歩んだ足跡

小学校147年、中学校72年の歴史に迫る



自作の法被で舞うロックソーラン節

芸術鑑賞教室でプロの俳優と金田中生徒が競演

